

第3回 あま市自殺対策計画策定委員会会議録要旨

日時 平成29年11月22日（水）
午後1時30分～午後3時18分
場所 あま市甚目寺総合福祉会館1階会議室

1 出席者等

出席者等（委員）	9名
（事務局）	8名
（傍聴者）	0名

2 報告事項

（1）平成29年度第2回あま市自殺対策計画策定委員会の要旨について

3 議事

（1）あま市自殺対策計画素案について
（2）その他

（1）【あま市の自殺対策に関するこれまでの取り組み及び課題について】

（事務局説明要旨）

【資料2】に基づき「あま市自殺対策計画素案」について、以下の3つに分けて説明。

- ①全体構成
- ②基本方針・基本施策
- ③数値目標・重点施策

【① 全体構成】

○計画書は素案の時点で約70ページとなっており、最終的にはもう少しページ数が増えることにことを説明。

○計画書の記載内容を、大まかに5つに分けて説明。

- ・「第1章 計画策定にあたって」では、国の動向や計画の位置付け及び期間を記載している。
- ・「第2章 自殺の現状等」ではあま市の自殺にかかるデータの分析結果や団体ヒアリング結果、さらにあま市の自殺対策に関する課題や強化すべき点を整理し記載している。
- ・「第3章および第4章 計画の基本方針と基本施策」として、12の基本施策に基づいた「あま市の今後の事業・取組」を記載している。
- ・「第5章 数値目標・重点施策」として、数値目標とあま市が今後の新規・重点を置く取組を記載している。
- ・「第6章 計画推進体制」として、計画策定後の事業・取組等の進行管理体制を記載している。

【② 基本方針・基本施策】

○基本方針は、前回の委員会資料において確認いただいた、計画の基本理念等を記載していることを説明。

○基本施策は、国の大綱における12の当面の重点目標を踏まえ、あま市の施策として改めて整理を行ったことを説明。

○12の基本施策に基づき、約130の事業・取組を記載したことを説明。
また、現在も国などから示されている資料等をもとに、庁内の作業部会等で追加すべき事業・取組がないかを確認中であることを説明。

【3 数値目標・重点施策】

- 全体目標として平成39年での自殺者数及び自殺死亡率の目標値を掲げた。
- 12の基本施策における事業・取組のうち、国の示す自殺対策政策における基本施策やあま市が取り組むべき課題・強化すべき点等を踏まえ、重点項目として5つの項目とそれに係る事業・取組を記載した。また、これらについては、できる限り数値目標を掲げて記載した。
- 重点項目1については、関係機関等との連携・ネットワークの強化として、行政・関連機関・地域団体等から構成された新たな組織を構築し、連携を強化することを記載し、あわせて数値目標を掲げた。
- 重点項目2については、気づきのための人材育成として、ゲートキーパー養成講座の受講者拡大及び内容の充実を記載し、あわせて数値目標を掲げた。
- 重点項目3については、市民への普及啓発として、自殺やアルコールに対する正しい理解やゲートキーパーの役割の認知度を高めるような啓発を実施すること記載し、あわせて数値目標を掲げた。
- 重点項目4については、ハイリスク者に対するアプローチ・支援として、相談窓口の充実、高齢者等の居場所づくり、アルコール依存症・自殺再企図者・遺された人への支援の充実などの内容を記載した。
- 重点項目5については、国が強く実施を要請している「SOSの出し方に関する教育」の推進について記載した。

(主な意見等)

○計画に盛り込まれている事業・取組について、予算の確保をどのように考えているのか？

⇒重点項目に記載している事業・取組みについて、平成30年度から実施すると記載しているものについては、予算化ができるよう内部で検討中である。

予算については、議会の議決が前提になるものではありませんが、国・県の交付金なども活用しながら、市として確実に予算措置できるようにしていきたい。

○広範囲におよぶ自殺対策について、重点施策をかかげ取り組むことは良いことと考える。

○ゲートキーパーの講師はどのような方をお考えか？自殺につながるのはこころの健康に関わることであるので、精神科の医師等が適任と思うのがいいか。

⇒精神科医師を始めコンサルタント等へ講師依頼することになると思われるが、受講対象やその内容（初級・中級など）によっても依頼先が変わると思われる。今後、依頼先等について調査検討させていただきたい。

○自殺を助長するようなSNSの対策については、どのように考えているか？

⇒情報モラル教育を推進するということで、インターネットや携帯電話などの健全な利用についての教育を、学校教育課や人権推進課などで行っている。しかし、1対1でやりとりされる情報通信については、有効な対策がないというのが現状であり、今後、運用側の対応などをふまえて有効な手段・対策等を検討していきたい。

○ゲートキーパー養成講座について、現状での取組を具体的に教えていただきたい。

⇒今年度については、10月にゲートキーパー養成講座を開催し、甚目

寺地区の民生委員・児童委員の方を中心に約50名の参加をいただいた。

今後もより多くの市民方に受講いただけるようにと考えている。

○ゲートキーパーは、生きていくことを支援していく人と考えている。民生委員・児童委員も4K・ケア（気配り、気づき、声かけ、傾聴）活動に取り組んでおり、心理的に追い込まれている人に声をかけ、話を聞き、見守ることを実施し、そのような方を応援していきたいと考えている。

○ゲートキーパー養成講座やネットワーク会議はすでに愛知県（津島保健所）でも行われている。これらを重複して行っていくということか？

○例えば、ゲートキーパー養成講座などは、ねらいを明確にし、整理（棲み分け）することが必要と考える。また、ネットワーク会議についても、保健所は広域での取組について、市は市内の連携やあま市内の取組についての検討をするということになると思われる。

⇒ご指摘のとおり事業や取組のねらい等を明確にし、整理（棲み分け）を行っていききたいと考えている。

○SOSの出し方に関する教育は、学校に働きかければすぐにでも実施できるのではと考えるがいかがか？

⇒SOSの出し方については、すでに学校で組まれているが内容等については学校間でばらつきがあると思われる。

このたびの大綱等における、SOSの出し方に関する教育の推進については、すでに学校関係者には認識されているところであり、今後、国が望む本教育の内容に沿うような、SOSの出し方に関する教育を市内全校で実施していきたいと考えている。

○精神医療機関との連携による相談事業の実施が掲載されているが、ハイリスク者については、継続的な支援が必要と考えるがいかがか？

⇒ボランティアグループなどのヒアリングにおいて、身近な場所に相談場所が設置されていることを望む声があり、また潜在的なニーズはあると感じたところである。

ご意見のとおり、ハイリスク者については、継続的な支援が必要ではあるが、相談ができるきっかけづくり、相談しやすい体制づくりの一環として、定期での相談事業の実施に取り組んでいきたいと考えている。

○うつ病のスクリーニングについて、このスクリーニングで把握できたリスクの高い方へどのようなかたちでフォローしていくことを考えているのか？

⇒スクリーニングにおいて、リスクが高いと判断された方については、まずは適切な情報提供をしていきたいと考えている。

○うつ病のスクリーニングとは、具体的にどのようなものか？

アンケート形式によりストレスチェックを行うものとなります。

○本素案について、現在も内部で調整中とのことであるが、今後の見通し（修正範囲や内容）はどのようなか？

⇒本素案が大きく変わることはないと考えているが、事業・取組、数値目標設定などの追加、さらにグラフの見せ方や文章の表現についても、もう少し修正をする必要があると考えている。

○自殺者数・自殺死亡率の低減ということで、高い数値目標が設定されている。自殺者数・自殺死亡率は、経済的の状況にも大きく左右されるところがあるため、そのあたりを十分認識しておく必要があると考える。